



西粟倉小学校だより

No. 10 令和8年 2月 4日 (水)

心の鬼を退治しよう



2月3日(火)は節分でした。節分には立春、立夏、立秋、立冬がありますが、最近は立春だけが節分と呼ばれることが多くなりました。

昔、立春は1年の始まりとされ、その前日である節分は、今でいう大晦日でした。

節分の時期には邪鬼がはびこるとされ、その邪鬼を払い、幸福を呼び込む意味で、豆まきをします。また、イワシの頭をヒイラギの枝にさしたものを玄関に飾り、邪鬼をよせつけないようにする風習もあります。

ちなみに、恵方巻を食べるのは、年越しそばを食べるのと同じように、長いものを食べて幸せを呼ぶという意味があるそうです。

児童朝礼で子どもたちに豆まきをお家でするかどうかを尋ねました。おおよそ、半数の子が手をあげました。昔と比べると、豆まきの様子もずいぶん変わってきたようです。

ところで、心にも鬼が潜んでいると言われます。「面倒くさがりの鬼」「素直になれない鬼」「意地悪をしてしまう鬼」など、人間には心の中に様々な鬼がいると言うのです。豆まきをすることで、それらの鬼を心から追い出し、代わりに「新たな気持ちで頑張ろう」とする心を迎え入れることができるといいですね。

子どもたちには、どんな鬼を退治して、どんなことを頑張ろうとするかを考えて、残り2か月を過ごしてほしいと思います。

一人で立ち上がる力

今年もスキー教室が終わりました。どの学年もスキーを楽しんでくれてよかったです。（こちらの模様は、ホームページの「学校の様子」にも載せています。そちらも是非、ご覧ください。）



さて、「転ばぬ先の杖」とは言いますが、人生、「転ばぬ先の杖」ばかりで生きていけるのでしょうか？人生において、失敗はつきものです。いつ、どこで失敗するかは分かりません。子どもの将来を思うあまり、先を見越して杖ばかりを与えていると、子どもは失敗できなくなります。失敗ばかりを気にして人生を生きていくことは、案外、苦しく、孤独なものになるような気がします。「転んでも一人で立ち上がる力」をつけておくことの方が、気持ちを大きく持ち、いろいろなことにチャレンジして、自身の夢や目標に向かって進むことができるような気がします。

では、以上のようなことを、どうやって伝えるのか？これは、個人の体験でしかないと考えます。実際に失敗し、誰かの力を借りたり、自身で考えてたりしながらも、最終的には一人で出来たという達成感を味わっておくことが必要であると思います。

そう考えると、スキーでは、転んだら一人で立ち上がらなければなりません。立ち方のアドバイスや、一時の支えはしてなくても、最終的には一人で立ち上がらなければ、次に滑ることはできません。転んでも、大丈夫。一人で立てる。こういった気持ちが、次も滑ろうとする意欲につながります。前述したことが、スキーでは体感できるのです。

実際に、最初は転ぶ回数が多くても、一人で立つことを覚えた子は、次もチャレンジします。その繰り返しで、だんだん滑りがうまくなり、スキーを楽しんでいることができていました。一人でできたという達成感が、こういった気持ちにさせるのだと思います。

子どもたちがスキーを通して、ここにあげたような体験をし、その価値に気づき、自身の人生に活かしてくれるといいなあと思います。

今年も、スキー教室ができてよかったです。保護者の皆様、そして、当日、講師をしてくださった地域の方々、本当にお世話になりました。

